

2003 年度 委員会活動成果報告

(2 0 0 4 年 3 月 2 5 日 作 成)

委員会名	歴史的建築リスト整備活用小委員会	主 査 名 : 川向正人
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名 : 陣内秀信
設 置 期 間	2 0 0 3 年 4 月 ~ 2 0 0 5 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>(具体的な目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検索と更新の可能な歴史的建築(国宝・重文・登録有形文化財を含む歴史的価値を有する建築)のリスト作成をインターネットによるデータベース化の形で進めるための双方向型システムの構築とその公開規定・利用ガイドラインの策定、 ・ 支部・大学・研究機関・自治体等との人的ネットワークの構築、日常生活の中に生き続ける歴史的建築を広範にリスト化するためには欠かせない地域の専門家・一般住民の参加プログラムの策定、など。 <p><u>初年度(2003年度)活動計画:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2003年度までに支部単位で打ち込まれたデータをチェックし、なお打ち込み作業を継続する支部・機関・研究者に確認の連絡を取る。 ・ 「利用規約」「プライバシーポリシー」の策定。 ・ 2003年3月末現在での「2003年度版日本建築学会編歴史的建築リスト」の委員長による承認、「リスト原版」CD-ROM作成、「公開リスト」のインターネット上での公開。 ・ 人的ネットワークの拡充(支部委員、地域委員の新規委嘱など)。 	
委員構成 (委員名(所属))	川向 正人(東京理科大学理工学部、主査) 足立裕司(神戸大学) 池上重康(北海道大学) 伊藤毅(東京大学) 渡邊研司(連健夫建築研究室、DOCOMOMO Japan 委員) 多田善昭(多田善昭建築設計事務所) 永井康雄(東北大学) 西和彦(文化庁文化財部建造物課) 波多野純(日本工業大学) 堀内正昭(昭和女子大学) 前村敏彰(日本実業出版社メディア局) 佐藤正彦(九州産業大学)	
設置 WG (WG名:目的)		
2003 年度予算	2 3 0 , 0 0 0 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	地方から出席する委員もあって、旅費の工面に苦労しつつ、大会 PD とその『資料』作成に向けて、毎回ほぼ全員出席で委員会を開催した。開催日は次の通り：4月21日、6月9日、7月8日、9月5日。この後は、新 DB システムの構築とサーバ移管について、インターネット上にて委員会開催。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 大会 PD の開催とその『資料』作成(200部完売) 関東支部でのシンポジウム開催、『建築雑誌』2004年3月号へのトピックスとしての活動報告の掲載などによって、この DB の学会内部での認知度が急激に向上している。

	<p>日本学術振興財団科学研究費・研究成果公開促進費（データベース）の助成を受け、セキュリティ対策されたデータベースサーバ（URL http:// GloHB-ue.eng.hokudai.ac.jp/）を構築することができた。平成 15 年度末で総記載物件数は約 32000 件ある。本サイトはパスワードにより管理され、利用者を階層化することにより、データへのアクセス権をコントロールするとともに、個人情報の保護を図っている。今年度は、文化財指定建造物のデータを充実させることを重点的に行ない、国指定重要文化財（国宝含む）国登録文化財全件の入力完了し、各自治体の指定文化財に関する約 7 割の自治体において入力することができた。現時点で、日本における文化財建造物の情報を得ることができる最良のインターネットサイトである。日本建築学会の一大事業であった『日本近代建築総覧』も新版ならびに追補・改訂ともに入力を完了することができた。一部地域では、『近代化遺産調査報告書』など各種調査報告書掲載物件の入力も進んでいる。</p>
<p>目標の達成度</p>	<p>（当初の活動計画と得られた成果との関係） この DB の存在を学会内部に周知徹底させる点に関しては、相当成果を上げている。それに伴い、各支部でのデータ打ち込み作業も進んでいる。 安全性が高く信頼できるシステム構築が完了した。 科学研究費助成申請時には、25,000 件を目論んでいたが、作業の進展は著しく、32,000 件を入力。文化庁が管理する国指定文化財の情報以外にはなかったことを思えば、十分に当初の目的は達成出来たと言える。</p>
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>一部地域において、学会外の行政機関（博物館など）あるいは建築士会などからの協力も得られ始めている。この潮流が全国に敷衍することを願っている。</p>